

八代町瑜伽寺遺跡および山梨市七日子 (廃寺) 遺跡出土遺物について

野代 幸和・鈴木 由香(甲府市教育委員会)

- | | |
|----------------|--------|
| 1 はじめに | 4 まとめ |
| 2 八代町瑜伽寺遺跡 | 5 おわりに |
| 3 山梨市七日子(廃寺)遺跡 | |

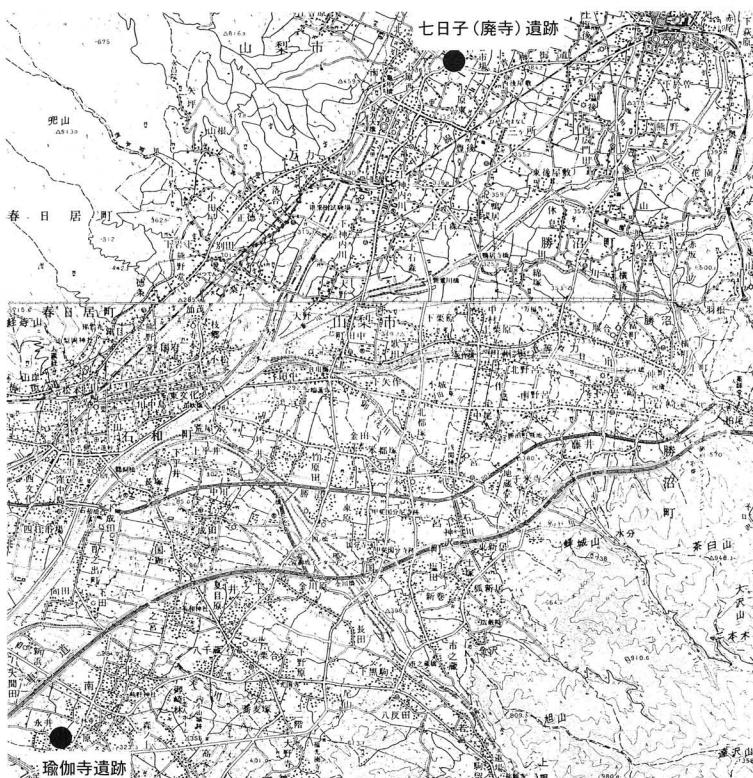
1 はじめに

ここに報告するものは、山梨県埋蔵文化財センターで1992年度に実施した古代官衙・寺院詳細分布調査の際に出土した資料であるが、1995年に刊行された報告書には調査の目的上、掲載できなかったものをここで扱うことを記しておく。

2 八代町瑜伽寺遺跡

瑜伽寺遺跡は、東八代郡八代町永井に所在する。

本遺跡は甲府盆地の南東部、JR石和温泉駅より南へ約5kmの地点に位置し、標高295mを測る。御坂山地から甲府盆地に向かい北西に流れながら笛吹川にそそぐ浅川によって、扇状地や丘陵が形成されている。その扇状地の扇中部にあたる。御坂山地は東側で隆起が大きいので、扇状地を流れる川は西側に片寄っている。そのため、遺跡の北側を西流している天川は浅川扇状地と東に隣接する金川扇状地のほぼ境を流れている。



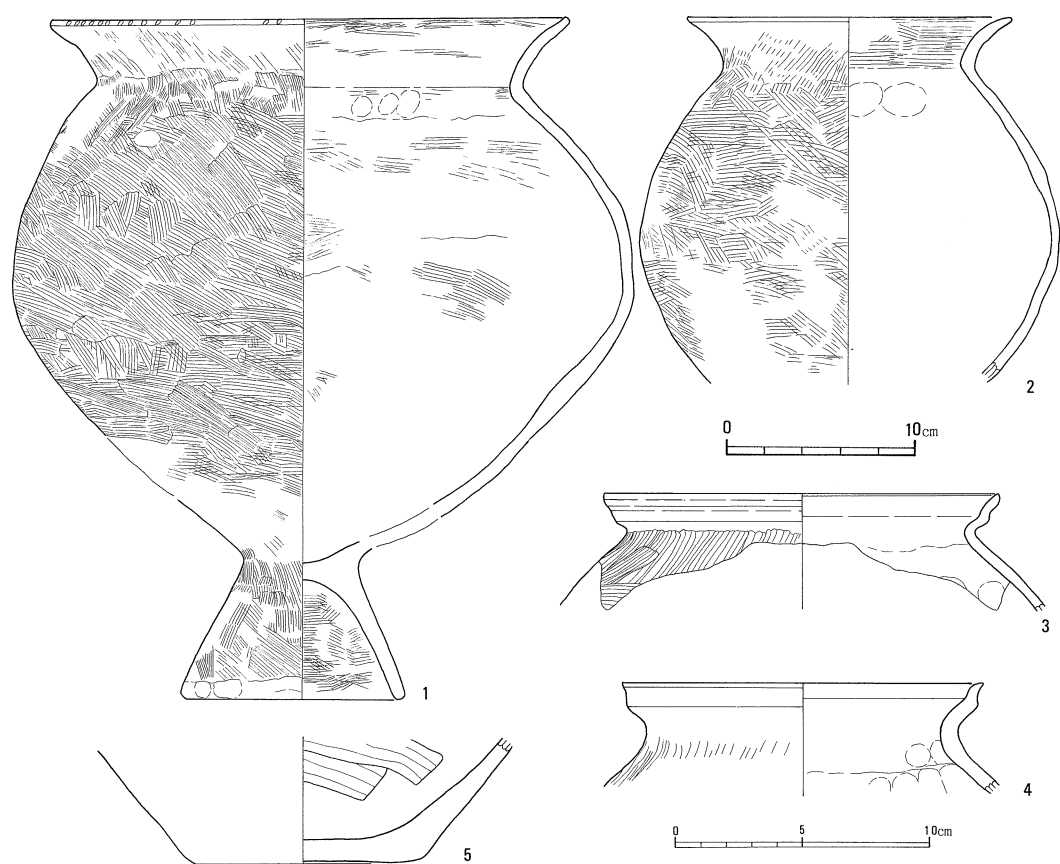
第1図 遺跡位置図

本遺跡周辺には、縄文時代から近世にかけて多くの遺跡が存在することで知られている。特に

古墳時代では、上ノ原（銚子原）の丘陵に岡・銚子塚古墳、盃塚古墳、上ノ平の丘陵に竜塚古墳、富士塚古墳など、非常に多くの前期古墳や後期古墳の分布が認められる。古墳以外では、堀ノ内遺跡、身洗澤遺跡などの古墳時代の遺跡が確認された。また、本遺跡が立地している永井は『甲斐国志』に長井と記載された例もあり、戦国期には長井郷と呼ばれていた。周辺には条里制の遺構がみられ、『和名抄』に八代郡の長江郷と八代郷の所在が記載されていることから、この地域が古くから栄えていたことが窺える。

第2図には古墳時代の土器を図示した。1が台付甕、2が甕、3・4がS字状口縁台付甕（以下、S字甕と記す）、5が甕の低部である。これらは、古墳時代初頭から前期に位置付けられるものである。

1は口径27.4cm、底径11.5cmを測る。胴部下端が一部欠損のため、器高は約36.0cmと推定される。色調は灰褐色を呈するが、口縁部内面に赤色塗布の可能性がある。口縁部に刻みを持ち、頸部にかけて「く」の字に大きく屈曲する。胴部外面の調整技法はハケ調整を基本とし、下端に吹き零れの痕が見られる。内面には口縁部に横走するハケ目の上をナデ消したような痕が見られ、頸部には指頭痕が見られる。脚台部の下端には折り返しを持たない。2は口径17.0cmを測る。色調は



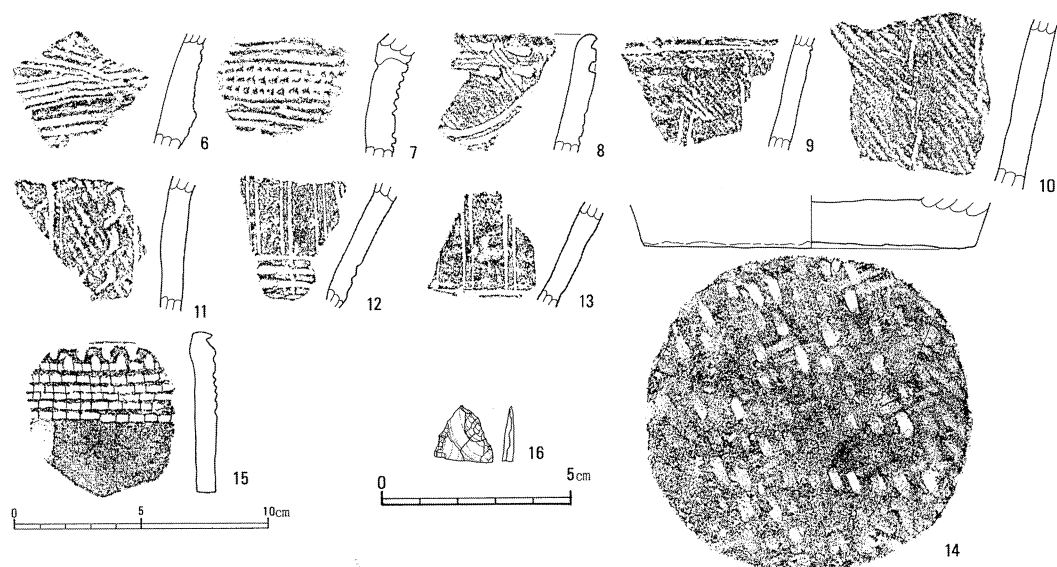
第2図 瑜伽寺遺跡出土遺物

淡褐色を呈する。単純口縁で、1と同様に口縁部から頸部にかけて「く」の字に大きく屈曲し、胴部は球形を呈する。胴部外面にハケ調整が見られる。内面には口縁部から頸部にかけてのみ横走るハケ目が見られ、肩部には指頭痕と思われる痕が見られる。3は口径約15.5cmと推定される。色調は淡赤橙色を呈する。口縁部が緩やかなS字状になり先端は丸みを持っている。口縁部から頸部にかけての距離が短く肩部が強く張り出す。頸部外面にハケ調整が見られ、内面には肩部に指頭痕と思われる痕が僅かに見られる。4は口径約14.2cmと推定される。色調は灰白色を呈する。口縁部各段が明瞭となり先端が尖る。3に比べ口縁部から頸部までの距離が長くなる。胴部外面にハケ調整が見られ、内面には頸部から肩部にかけて指頭痕と思われる痕が見られる。5は底径約8.5cmと推定される。色調は外面が暗褐色、内面が淡赤橙色を呈する。内面はヘラ状工具による調整が施され、底部には木葉痕と炭化物付着の痕が見られる。

3 山梨市七日子（廃寺）遺跡

七日子廃寺は山梨市七日市場字宮の平と塩山市三日市場字乙川戸にまたがって存在し、甲府盆地の北東、笛吹川中流の左岸に沿う平野部の緩やかな傾斜地、標高約400m付近に立地している。昭和24年の調査では平安時代の居住跡が、平成4年の調査でもやはり同時代と考えられる配石遺構が発見されているが、寺に関係する遺構は発見されていないのが現状である。ここに報告するものは前述のとおり平成4年の調査で試掘坑から発見されたものであるが、縄文時代や古墳～平安時代の遺物が、七日子神社周辺から多く表面採集することができ、また「戦時中に芋穴を掘った際に数多くの土器が出土し、子供たちが石を投げつけて壊して遊んだ」などの話が聞かれることから、遺跡は神社を中心とした部分が主体を示す可能性がある。

第3図に示した遺物は、全て縄文時代の遺物である。6・7は前期末の諸磯c式土器で、6は集合沈線文が施され、7は集合沈線文と結節沈線文で構成される。8～14は中期初頭の五領ヶ台



第3図 山梨市七日子（廃寺）遺跡出土遺物

Ⅱ式土器である。8～11は縄文系の土器群で、8は口縁部で口唇部に棒状工具による刺す突文が見られる。9～11は胴部で、結節縄文と沈線文が施される。12・13は沈線文系の土器群で、これらは胴上部にあたり、横位と縦位に沈線が施される。14は底部で網代痕が認められる。15は土製円盤で、径が6.3×5.8cmを測る。16は小剥離のある剥片石器で、1.5×1.6×0.3cmを測る。

4 まとめ

瑜伽寺遺跡の立地する八代町には、前期古墳や後期古墳が数多く分布している。特に、本遺跡の南方1.6kmには、県指定史跡である岡・銚子塚古墳を代表とする古墳の分布が見られる。また古墳の周辺からは、該期に相当する遺跡もいくつか確認されている。しかし、このような恵まれた歴史的環境にありながらも、浅川扇状地における古墳時代の様相については未だ空白な部分が多いのが現状である。八代町に近接する曾根丘陵において上の平遺跡の方形周溝墓群や東山古墳群の銚子塚古墳などの存在から、弥生時代後期から古墳時代にかけて大規模な墓の築造がされていたことは明らかである。また、東山北遺跡の方形周溝墓や隣接する米倉山B遺跡からはS字甕の出土例が認められた。このような周辺環境にあつて、本遺跡からS字甕の破片資料が得られたことは、八代町における古墳時代の様相や浅川扇状地と東山古墳群を築いた集団との関係を考える上で貴重な資料である。

七日子（廃寺）遺跡からは、縄文時代前期末～中期初頭段階に位置づけられる資料が発見された訳であるが、これらの遺物が意味するところは当地に該期の集落遺跡の存在が示唆されることである。また従来、縄文系と沈線文系土器群の伴出例が非常に少なかったため、こうした事例に関しても興味深いものである。周辺地域では、同市七日市場字宮ノ前南に所在する宮ノ前遺跡から縄文時代中期初頭段階の資料が出土していることが報告⁽¹⁾されており、これからの遺跡との関連性などについては今後の調査の進展に期待したい。

5 おわりに

今回ここに示した資料は、興味深い資料でありながら今日まで公表が遅れてしまったことは筆者の怠慢であり、この文面をもって反省に代えさせて頂きたい。最後に実測を手伝って頂いた高野真寿美氏、ご教示を賜った市川恵子氏にはこの場を借りて謝意を表す次第であります。

(註)

(1) 山梨県教育委員会『宮ノ前遺跡』山梨市文化財調査報告書 第3集(1995) 遺構には伴っていないが、縄文系と沈線文系の土器が出土している。

(参考文献)

山梨県教育委員会 『東山北遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第79集(1993)

山梨県教育委員会 『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第106集(1995)

八代町教育委員会 『山梨県指定史跡 岡・銚子塚古墳』八代町埋蔵文化財調査報告書第9集(1995)